



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより 第10巻3号

(季刊誌)

2008年7月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉<http://www.nishi-ganka.or.jp> 〈e-mail〉office@nishi-ganka.or.jp

新・特殊治療のご案内

アバスチン®硝子体内注射

眼の病気で新生血管(異常な血管)が関与するものでは、重症糖尿病網膜症や加齢性黄斑変性症、中心静脈血栓症、分枝静脈血栓症、近視性黄斑出血、特発性新生血管黄斑症、出血性緑内障等があります。これらの病気では、従来の治療では、視力低下を止められなかったり、場合によっては失明してしまうような場合があります。これら新生血管の発生には、血管内皮増殖因子(VEGF)というサイトカイン(化学物質)が深く関係しており、アバスチン®はこの VEGF を阻害する抗体として作用します。



VEGF をブロックすると病的な血管の更なる成長や増殖が抑制されます。従って既に述べたように加齢性黄斑変性症、静脈血栓症、糖尿病網膜症、強度近視による黄斑出血などに対しアバスチン®を使用すると出血や浮腫が速やかに吸収され、また病的な血管が消褪するのが観察されています。この様にこれまでの治療法と比べると**かなり顕著な効果が全例とまではいかないとしても見られます**。ただしアバスチン®は元々眼の疾患の治療薬として開発されたのではなく、転移した大腸癌の治療用として開発・認可されました。しかし、上記眼科領域の治療においても顕著な効果があり、今までの所、重篤な合併症もないようだという事で、眼科応用が未認可にもかかわらず全世界で使用されております。詳しくは主治医に、お尋ねください。

角膜内皮移植(DESK)

角膜の一番内側には角膜内皮細胞と呼ばれる一層の細胞構造があり、角膜の透明性を維持しています。この内皮細胞は分裂して増殖することができません。したがって何らかの原因でこの細胞が減少すると、本来透明であった角膜が混濁し（水疱性角膜症）、著しい視力低下を起こします。このような治療として、以前から角膜全層移植が行われて来ましたが、最近、角膜内皮細胞だけが悪いのであれば、角膜内皮細胞だけを取り替える（角膜パーツ移植）、角膜内皮移植術が行われるようになりました。術後の（不正）乱視が生じにくく、裸眼視力向上が期待できる有効な術式です。御不明な点がありましたら主治医にお尋ね下さい。

Jan Worst Medal 受賞



(院長)西 起史は 昨年(2007 年)に続き、2008 年 4 月 **Jan Worst Medal** という名誉ある賞を受賞しました。この賞は世界の白内障内レンズ・屈折矯正手術分野(眼科)の研究で最も優れた



業績をあげた眼科医に与えられる最高に名誉ある賞です。2008 年 4 月 4 日-9 日 アメリカ Chicago で開催の ASCRS/ASOA(米

国眼内レンズ屈折手術学会)で受賞記念講演(4 月 6 日)を行いました。また 2008 年 9 月ドイツ Berlin で開催の ESCRS(欧州眼内レンズ屈折手術学会)では最高峰の Ridley Medal を受賞、Ridley Medal Lecture(受賞記念講演)を行う予定です。